

地色黄化後の収穫では果実の軟化が問題となるので（秋田，岩手），収穫時期と貯蔵性について落果防止剤の同時散布を前提としてさらに検討することとし，継続と判定した。

c. ふじ：中止

これまでの試験から成熟促進効果をもっとも期待されると思われる満開120日後の散布を中心に散布時期について青森りんご試，岩手園

試，宮城園試，果試盛岡で検討した。

その結果，着色，地色および熟度の促進される傾向は認められたが，明らかな促進効果ではなかった。したがって，ふじに対しては試験中止と判定した。

なお，本年試験されたその他の品種では青り2号に着色，熟期促進効果が期待された（長野園試）。

新 登 録 除 草 剤 一 覧

農 林 省 農 蚕 園 芸 局 植 物 防 疫 課

昭和48年8月1日～昭和49年5月31日

分類	種類名	商品名	有効成分の種類及び含有量	剤型	適作物(場所)	適用雑草	適用地帯	適用土壌	使用時期	使用量(10a当り)	使用方法	登録会社
ホルモン型除草剤	MCP 除草剤	ヤマク リーン M乳剤	2-メチル-4- クロロフェ ノキシ酢酸ブ チル 60.0%	乳 剤	スギ及 びヒノ キ 2年生 以上 [造林地 の下刈 り]	クズ			通 年	株径 1cm当 り10倍 希釈液 1cc	株頭処理 本剤を水 又は油(ク ロシンな ど)で所 定濃度に 希釈し， クズの株 頭に低圧 の手動噴 霧器又は 点滴容器 で所定量 をかける	日産化学 工 業 石原産業
	ブタク ロール 除草剤	マーシ ュット 粒剤 2.5	2-クロロ-2', 6'-ジエチル -N-(ブト キシメチル) アセトアニリ ド 2.5%	粒 剤	普通移 植水稻	ノビエ 等水田 1年生 雑草及 びマツ バイ	全域の普通 期栽培地帯	砂壤土 ～埴土 (減水 深2cm /日以下)	田植前3日 ～ 田植後3日	Kg 3～4	湛水のま ま手まき あるいは 散粒機で 水面に均 一に散布 する	三 共 北海三共 九州三共 日本農薬 北興化学 工 業 三菱化成 工 業 三菱モン サント化成
非ホルモン型除草剤							北海道を除く 全域の普通 期栽培地帯 (関東東 山の早期栽 培を含む)		田植前3日 ～ 田植後3日	3～4		
							北 海 道		田植直後～ 田植後3日	3		

分類	種類名	商品名	有効成分の種類及び含有量	剤型	適作物 (場所)	適雑草	適用地帯	適土壌	使用時期	使用量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
混合剤	フェノ ビレー トシメ トリン 除草剤	ロロッ ブS粒 剤	1-ビロリジン カルボン酸2, 4-ジクロル フェニル 5.0% 2-メチルチオ 4,6-ビスエ チルアミノ- 5-トリアジ ン 1.5%	粒 剤	普通移 植水稻	ノビエ その他 水田1 年生雑 草及び マツナシ	北海道を除 く全地域の 普通期栽培 地帯(関東 東山の早期 栽培を含む)	壤土 ~壇土 (極端 な漏水 田を除 く)	田植後7~ 12日ノビ エの2葉期 まで	3 Kg	湛水散布 (土壌処 理、茎葉 処理)	日本農業
							東北、北陸 地域の普通 期栽培地帯		田植後15 ~25日ノ ビエの2葉 期まで 移植前後の 初期除草剤 での土壌処 理との体系 で使用			
混合剤	DPA ・テト ラビオン 除草剤	クズノ ック微 粒剤	2,2-ジクロル プロピオン酸 ナトリウム 5.0% 2,2,3,3-テト ラフルオルブ ロビオン酸ナ トリウム 2.0%	微 粒 剤	下刈地 (ヒノ キ・ス ギ)地 ごしら え地、 開こん 地	クズ			クズの 生育期	Kg 5~10	全面散布	三 共 北海三共 九州三共 ダイキン 工業 保土谷化 学工業
農薬肥料	テトラ ビオン 複合肥 料	フレノ ック森 林尿素 化成	2,2,3,3-テト ラフルオルブ ロビオン酸ナ トリウム 2.0% 尿素 13.90% 硫酸アンモニア 51.30% 磷酸アンモニア 18.00% 塩化加里 13.80%	粒 剤	下刈地 (ヒノ キ・ス ギ)地 ごしら え地、 開こん 地	ススキ ササ			ススキ、サ サの出芽前 ~出芽初期	Kg 15~ 30	全面均一 散布	住友化学 工業